

証券市場新聞

1 第159号

日経平均株価

2万1374円83銭

▼441円36銭(前日比)

TOPIX

1592.16

▼24.49(前日比)

2018
12/17
月曜日

発行元 ココ・パートナーズ株式会社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



2025年の大阪万博

博覧会
開催決
定前後では
桜島埠頭
(9353)や
杉村倉庫
(935)

年末はテーマに乗る材料株物色だ!

倉庫(935)の地元企業が保有不動産の絡みで賑わったが、今後は万博開催後のIR整備も視野に入れ、設備や工事の絡む銘柄がターゲットになる。遊戯

注実績では三精テクノロジーズ(635)が狙い目か。万博のようなインパクトはないもの、ここへきてサービス普及へ動きだしてきたのがタクシーの配車アプリ。ディー・エヌ・エー(243)が次世代タクシ配車アプリ「MOV」で乗客の利用料金が無料となる「0円タクシー」の走行を開始。台湾最大手

内需に絡み業績に不安ない

今週から欧米投資家がクリスマス休暇に入ることから市場全体の商いは低調となり、ハイテクや自動車などの外需大型株は見送られる可能性が高くなりそう。そのような状況で目先のには、1部では中小型、2部やマザーズとジャスダックの新興銘柄を中心にテーマに乗る個人投資家好みの低位材料株から値動きの良いものが物色のターゲットになる。米中貿易摩擦の着地点も不透明な状況では、その中でも内需に絡む銘柄が業績面の不安がなく選好されよう。

機械大手で過去の受注が伸びている

中小型低位材料株を狙う

万博、配車アプリ、AR妙味株は?

タクシー企業である台湾大車隊と配車アプリによる相互の海外配車サービスで提携した大和自動車交通(9082)は12月6日にストップ高に買われた。インバウンド需要を喚起するうえでも配車サービスの普及は今後

も更に進むことが予想され、株価上昇も一過性にはならないだろう。新たなサービスでは専用のメガネなどを使って人間の視覚に文字や画像といった情報を融合するARも様々な動きは起きている。NTTドコモ(9437)と、5GとARを組み合わせたグラスを活用したドローンの遠隔支援などの実証実験を行うサン電子(6736)やARの構築支援サービスを行うサイバネット(4312)が注目される。

日経平均日足チャート





パイオニアの日足チャート

パイオニア値下りトップ

香港ファンド傘下に入り上場廃止

「ベアリング・プライベート・エクイティ・アジア」の出資を受け入れ、完全子会社になると発表、来年3月上場廃止となる見通し

週明け10日、パイオニア(6773)が急落、東証全市場で値下がり率トップとなった。香港の投資ファンド「ベアリング・プライベート・エクイティ・アジア」が、パイオニアの発行済み株式の約70%を取得し、完全子会社になると発表、来年3月上場廃止となる見通し。

今週の動意銘柄

MSOストップ高

10日、マネジメントソリューションズ(7033)がストップ高。18年10月期の連結業績予

田淵電再生手続成立

10日、田淵電機(6624)が急反発。取引金融機関から債

ライクキッズ安で最安値

11日、ライクキッズネクスト(6065)がストップ安まで売られ上場来安値を更新。19年4月期第2四半期累計の連結決算で、経常利益が7億5400万円(前年同期比21.3%減)と大幅減益で着地したことが嫌気された。売上高は98億20

00万円(同16.7%増)と2ケタ超の増収を確保したものの、認可保育園の新規開設が1施設にとどまったことで、設備補助金収入が減少した。

公開価格97%上回る

ピアラの初値11日、ピアラ(7044)が東証マザ

ーズ市場に新規上場、公開価格2550円を97.3%上回る5030円で初値が生まれた。ECマーケットینگテック事業と広告マーケティング事業を展開する。

公開価格46%上回る

アルーの初値11日、アルー(7043)が東証マザーズ市場に新規上場、公開価格1370円

正直いいさんの株で大判小判

14日の東京市場は大幅反落。朝寄りでは当面の利益を確定する売りが優勢でしたが、時間外の米株指数先物安やアジア株の下落も重しになり、一時460円超に下げ幅を広げました。SQ推奨値2万1618円88銭を下回り、売りに傾きやす売り材料はSQまで実度しかない休暇を前に19日のソ主力銘柄には需ししょう。ただ、日下値は売り込みけ仕切り直すタドを見せる中小型株の緩んだところを狙っていきたいと思います。

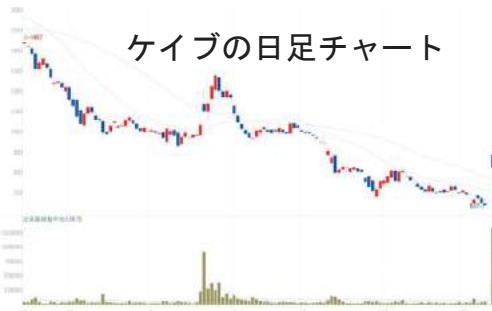
短期値幅取りではなくふう(4399)やはてな(3930)、オプティム(3694)の週明け反転に期待です。 花咲翁

正直いいさんの株で大判小判 14日の東京市場は大幅反落。朝寄りでは当面の利益を確定する売りが優勢でしたが、時間外の米株指数先物安やアジア株の下落も重しになり、一時460円超に下げ幅を広げました。SQ推奨値2万1618円88銭を下回り、売りに傾きやす売り材料はSQまで実度しかない休暇を前に19日のソ主力銘柄には需ししょう。ただ、日下値は売り込みけ仕切り直すタドを見せる中小型株の緩んだところを狙っていきたいと思います。



東京個別は需給圧迫 12日、東京個別指導学院(47

45)が続急落。116万株の立会外分売を実施することで需給圧迫を警戒した売りがかさんだ。分売株数は発行済み株式数の2.13%に及ぶ。分売実施予定期間は17日から21日まで。



ケイブの日足チャート

12日、ケイブ(3760)が急反発、ストップ高比例配分となった。KeyHolder(4712)との業務資本提携を発表した。ケイブはKeyHolderに對して、第三者割当の方法で、発普通株式76万株(増資後の発行済株式総数に對する19.6%)を割り当てる。これにより、ケイブとKeyHolderはネットクレーンゲーム事業の

ケイブがストップ高

KeyHolderと資本業務提携

新規展開を行う。

公開価格5%下回る

アルテリアの初値
12日、アルテリア・ネットワークス

武田買戻し優勢に

13日、武田薬品工業(4502)が大幅続伸。シャイアとの株式交換比率から割安なシャイア一株が買われ、割高な同社株が売られてきたが、前日に年初来安値36

62円を付けるなど、このところの株価急落でスプレッドが縮小し、買戻しが優勢になった。

公開価格14%上回る

オーウエルの初値
13日、オーウエル(7670)が東証2部へ新規上場、

(4423)が東証一部に新規上場、公開価格1250円を4.8%下回る1190円で初値が生まれた。同社は光インターネット接続や専用線、VPN接続、マンションインタールネットサービスを展開する。

公開価格750円を14%上回る855円で初値をつけた。塗料、表面処理剤、塗装関連機器・設備意匠・保護フィルム等の販売と電気・電子部品の販売、付帯する各種工事の請負設計・監理を行う。

公開価格23%上回る

FUJIFILMの初値
13日、FUJIFILM ジャパン(1449)が札幌アンビシヤスに新規上場、公開価格740円を22.6%上回る907円で初値をつけた。リフォーム事業(外壁材の製造、販売、卸施工、並びに総合リフォーム)を行う。

先進技術で豊かな未来を——



+ 技術力

立花エレテックは電機・電子の「技術商社」です。トータルソリューションで価値ある未来を創造します——。

未来指向というチカラ。



電機・電子技術商社のリーディング・カンパニー。

株式会社 立花エレテック

TACHIBANA ELETECH

東証第一部(証券コード:8159)
本社/〒550-8555 大阪市西区西本町1-13-25 TEL:06-6539-8800
支社/東京・名古屋
支店/東関東・北関東・神奈川・三河・東海・北陸・三重・滋賀・南大阪・神戸・姫路・広島・四国・九州
海外/香港・シンガポール・台湾・上海・韓国・タイ・インドネシア
北京・深圳・武漢・大連・青島・マレーシア

<http://www.tachibana.co.jp/>

企業観察 大和ハウス工業(1925)

成長持続へ基盤整備着々

大和ハウス工業(1925)は持続的な事業拡大へ着々と基盤を整備している。19年3月期を最終年度とする中期計画では3年間で過去最高の7200億円の不動産投資を実施、三大都市圏と地方中核都市で複合開発を進める一方、海外市場開拓にも力を入れている。すでに成果は表れており、第2四半期は地震・制振用オイルダンパー問題の影響を商業・事業施設の好調で吸収し、連結売上高1兆9833億2600万円(前年同期比9.6%増)、営業利益1895億8600万円(同5.1%増)と増収増益を確保した。通期

19年3月期中計目標超過達成へ

は売上高4兆500億円(前期比6.7%増)、営業利益3540億円(同2.0%増)と従来予想を据え置き、有価証券売却益を計上することから最終利益のみ増額。2ケタを大きく上回る大幅増益が続いた前期までから成長ピッチは鈍るものの、中計目標は初年度に達成し、目標値を引き上げている。今期はその修正値も上回る見通しだ。また、今期計画には消費増税の影響は加味していないが「先行して開発用地を取得している(会社側)としており、駆け込み需要が発生するようなら、収益上振れもあり得るだろう。

今週の動意銘柄

14日、ジャパニーズプレイ(6740)が急伸、一時24円高の76円まで買われ、東証全市場で値上がりトップとなった。液晶パネルメーカーの京東方科技集団(BOE)など中国の3社から数百億円規模の出資を受ける方向で調整されていると一部で報じられたことから思

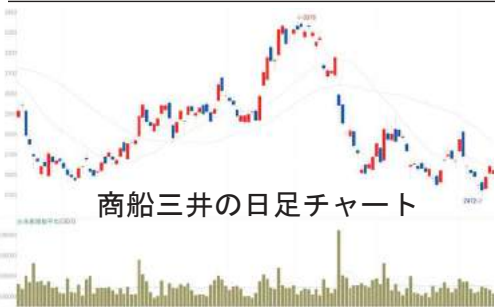
14日、オハラ(5218)が急反落、年初来安値を更新した。19年10月期は連結営業利益28億円(前期比14.4%減)を予想したことを嫌気。デジタルカメラ向けコンパクトタイプの需要減が続く。

オハラ14%営業減益

海運は値上がり上位

米中通商問題への懸念後退

13日、日本郵船(910)が1.1%、商船三井(910)が0.4%、川崎汽船(910)が0.7%を上げ、海運株が個別騰落率で3業種中2位となった。中国側が「中国製造2025」の見直しや米国車への関税引き下



げ、米国産大豆輸入拡大を検討するなど、観測が広がったことと、米中通商問題への懸念が後退。米中貿易停滞による荷

動き停滞への警戒感が和らぎ、買戻しが優勢になった。

週末14日、鎌倉新書(6184)が急反発。13日取引終了後、19年1月期の連結業績予想について、売上高を22億円から25億円(前期比46.3%増)へ、営業利益を5億2000万円から7億4000万円(同82.7%増)へ大幅に上方修正した。お墓・葬祭・仏壇事業ともに計画より大幅に成約数が増加している。

鎌倉新書は大幅増額

業績悪化懸念

先週の東京株式市場は相変わらず乱高下を続けており、2週連続下落となりました。金曜日に日銀短観が発表されましたが、大企業製造業の3カ月先の業況判断は悪化する見通しであり、四季報新春号を見ても四季報秋号と比較すると、製造業が2.2%の下振れ、非製造業が0.1%の上振れ、全産業では1.1%の下方修正となっており厳しい状況となってきました。

13日に日経平均は2万1871円まで上昇しましたが、25日線に上値が押さえ込まれ、翌14日には5日線まで落ち込んでしまいました。本年の立会いも残すところ9営業日となり、今週は税金対策の売りも入ってきますが、そんな中19日には今年最大のIPO案件であるソフトバンクの上場が控えています。このイベントをどのような形で通過するのが最大関心事。噴き値は戻り売り対処でしょう。

日々勇太郎



JDI中国3社出資報道

感買いを誘った。

潮流

経営者は節度をわきまえろ

社員との信頼が日本を支えてきた

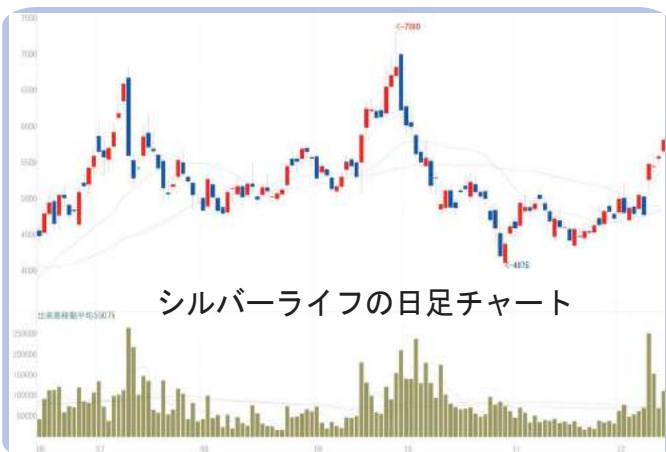
marKet / bAnk

日産会長兼ルノーCEOであったカルロス・ゴーン氏は2010年から2014年までの役員報酬が100億円だったが、50億円しか有価証券取引所に記載しなかったことによる金融商品取引法違反で逮捕された。

株価は急落し、時価総額が約2863億円吹き飛んだ。2010年に役員報酬の公開が義務付けられ、多額な報酬に対する批判を逃れたかっただろう。事件の全貌が明るみになるに連れて、ゴーン氏の「表の顔と裏の顔」があることが分かった。1998年、日産が倒産の危機に陥っていたところにルノーから資本援助を受けた。ゴーン氏は社員2万1000人を削減するなど、3年間で1兆円のコストカットを断行した。その結果、日産は黒字化になり、2001年3月期決算は過去最高益を達成し、「ゴーンマジック」と呼ばれた。

昼食は役員食堂でラーメンを食べて自分は特別な人間ではないことをアピールした。しかし、それは表の顔で実は裏の顔があったのだ。元幹部がゴーン氏の部屋に入ったら靴を履いたまま机の上に足を乗せ、ふんぞり返って報告を聞く。「役員が食べている食堂のランチは豚の餌か」と言う。「名誉は金で買うものだよ」とも言う。

今回の件で学ぶことは、経営者はそれなりの節度を持たなければならないということだ。海外では経営者の年収が10億円を超える企業は珍しくないが、日本人と考え方と文化が違う。日本人は社員やその家族まで大切にす。経営者と社員の信頼関係が今までの日本を支えてきたことは紛れも無い事実だ。自己中心の社会に傾斜している日本に警鐘を鳴らす事件だ。



また、この事件を機に私生活における不祥事も暴露された。前妻のリタ・ゴーンさんが言うにはゴーン氏の不倫が発覚し、離婚協議が始まった頃、財産分与を巡る協議の過程でお金に対する過剰な執着心が見えたという。不倫の証拠となるメールをゴーン氏に見せると「お前は嘘つきだ。気が狂っている。黙ってろ」と罵声を浴びせた。実際、ゴーン氏と不倫相手がレストランで抱擁しキスをしているところをフライデーされている。全ての財産への権利を放棄することを強要された。巨額な報酬を得ているにも関わらず自分のお金は使おうとしない人だったらしい。

今回の件で学ぶことは、経営者はそれなりの節度を持たなければならないということだ。海外では経営者の年収が10億円を超える企業は珍しくないが、日本人と考え方と文化が違う。日本人は社員やその家族まで大切にす。経営者と社員の信頼関係が今までの日本を支えてきたことは紛れも無い事実だ。自己中心の社会に傾斜している日本に警鐘を鳴らす事件だ。

潮流銘柄はシルバーライフ(9262)、and factory(7035)、リンクバル(6046)。



岡山 憲史氏(株式会社マーケットバンク代表取締役)のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは15.5%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

自己中心の風潮に警鐘

チャート から読む 騰落銘柄

オカダアイオン(6294)



11日に1559円まで急落後に50日線まで戻す。11月の1700円台での揉み合いゾーン抜ければ8月31日高値195円奪回から2000円を目指す動きに期待。18日上場の田中建設との比較感も。

ロゼッタ(6182)



大勢上昇トレンドのなか、5日移動平均を下値支持ラインに上昇が続く。全般軟弱地合いにあっても強い動きで、一気に16年5月の株式分割を考慮した最高値3290円奪回から一段高も。

JFEHD(5411)



12月11日に1863.5円の安値更新後も戻り鈍い。1800円割れとなれば2016年7月1日の安値1198.5円まで下値のフシはない。米中の鋼材需要減速懸念は強く倉敷第2高炉休止の影響も。

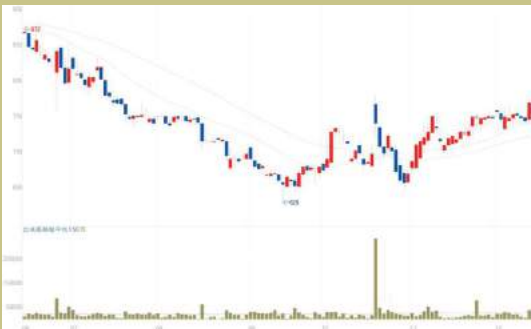
川崎重工業(7012)



全般地合い悪に押され、年初来安値を更新。日足陽転ならず月足は陰転し、下降トレンド鮮明に。押し目買いに信用買い残が増え、一段安を警戒。底割れ状態で当面2000円近辺まで下値のフシはない。

今週の

活躍期待銘柄



ダイハツディーゼル(6023)

姫路新工場稼働効果に期待

環境対応型デュアルファンエンジン機関の拡販も期待される。(と)

ダイハツディーゼル(6023)の株価は10月30日に648円まで突っ込んだ後、700円台での揉み合いを経て上値を伺う動きとなってきた。貸借倍率は0.92倍と拮抗、需給妙味からも10月19日にザラ場で付けた780円抜けから上昇加速に期待したい。

ダイハツ工業から独立し、船舶用ディーゼルエンジン発電用補機では世界大手一角を占める。発電用補機の採算性悪化で19年3月期は通期連結営業利益で30億円(前期比1.5%減)と減益の見込みながら、前提為替レート1ドル100円から上ブレ余地がある。姫路新工場の稼働で大型コンテナ船向けを中心に商品ラインナップを拡充、船の運行状況に合わせた最適な燃料を選択できる環境対応型デュアルファンエンジン機関の拡販も期待される。(と)

環境対応型機関も拡販へ



オプティム(3694)

今期は大幅増益観測強まる

スマートシティ向けアプリも強い。(さ)

オプティム(3694)は最高値奪回へ向かってきた。IoT、AI、ロボットの先端テクノロジを融合。農業や林業、医療、金融、災害対策など幅広い分野に新規事業を創出することで業容を急拡大しており、売上成長は年率20%を超える。高水準の戦略的開発投資を続けることから、19年3月期も営業利益100万円(10億円(前期比99.8%減)2.5倍)とレンジで予想するが、売上高は通期計画の50億6000万円(同20.2%増)に対して、第2四半期23億4500万円(前年同期比30.8%増)と計画を上回って推移しており、大幅増益観測が強まっている。さらに、米半導体大手NVIDIAのメトロポリス・パートナーシップに参画、スマートシティ向けアプリ開発への期待も強い。(さ)

スマートシティ向けアプリも

ゼネコンの押目を狙う

高野恭壽の株式情報 **これでどや!!**

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

調整色が強かった東京市場もようやく落ち着きを取り戻しました。この欄を執筆している13日は日経平均が続伸しました。2万1800円台まで戻し、25日移動平均線の2万1870円をあとわずかで突破が可能になった状況になりました。個別では前日動きの鈍かった外需系などで買い直され、銘柄が目立つ一方で、前日は値が伸びていませんでした。

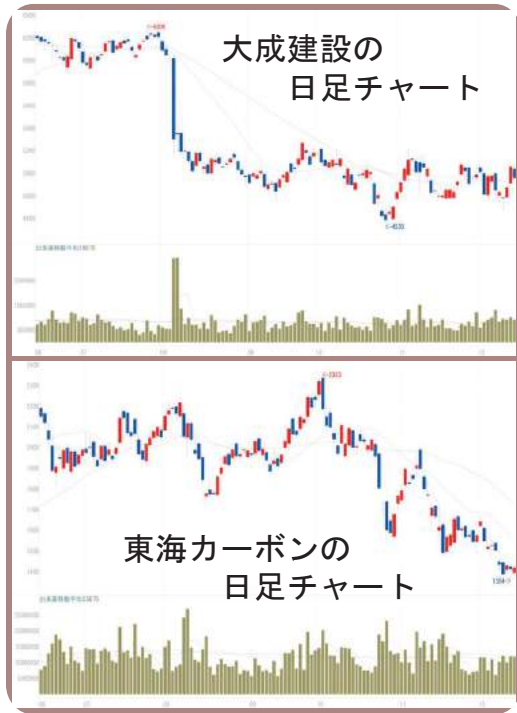
つまり、外需系は買われ、定値に限定される傾向があり、下落率をみて買う行動は避け

「穴株」は東海カーボン

する必要がありません。むしろ、一服場面の内需系をマークする必要があります。内需で出直りがみられるのが百貨店系で、エイチ・ツー・オー リテイリング(8242)、J・フロント リテイリング(3086)などでした。このあたりはちよつと狙うのも悪くないかもしれません。しかし、ここでの内需系は前日も指摘しましたようにゼネコンではないでしょうか。主力の大成建設(1801)が大台を替えて更に上値を追っています。大林組(1802)も堅調な動きになっていきます。もちろん、鹿島(1812)といったスーパーゼネコンも上値を追い始めました。11年ぶりの公共事業予算の増額はゼネコンの株を刺激します。まだ、スタートしたばかりであり、押し目があれば拾うべきと思っています。

穴株として東海カーボン(5301)とみていますが、まだ、動きがしつかりしていません。下落場面は少しマークしておくべきとみています。アンジエス(4563)は戻す動きになり始めましたが、まだ、400円台に乗せていません。本格的な上値追いはこれからではないでしょうか。大阪万博関連も杉村倉庫(9307)がようやく反発をみせました。桜島埠頭(9353)もようやく下げ止まったという感じですが、なかなか上値を追いませんが、底入れはしたようです。これらに加えて、今回の狙いは伊藤忠商事(8000)と丸紅(8002)の商社株です。

高野恭壽公式ホームページ
高野恭壽の株式市情報
これでどや!!
<https://marketpress.jp/kabu-takano/>
毎日情報を配信中!

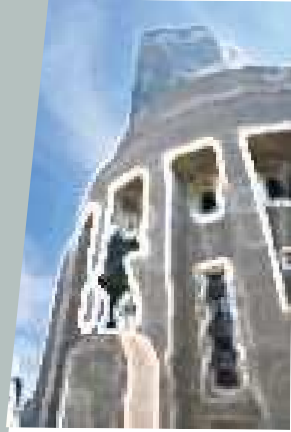


星野三太郎の 株街往来

～意外に脆いネ
ットワーク社会～

12月6日はソフトバンク回線で大規模通信障害が発生した。筆者はワイモバイルプランでソフトバンクの回線だったから、午後から通話ができない状態。夕方は社内で会議を行う予定だったが、参加者の全員がソフトバンク回線。しかも出張先から帰社予定の役員とは連絡が取れず、一時的にパニックになった。昭和の時代と違って今や携帯電話やスマホで通話が出来て当たり前だけに、ネットワーク社会が意外に脆いと感じた。

幸い、LINEによる無料通話はWiFi環境があれば可能なので、最悪の事態は回避できたがLINEを使っていない知人とは連絡を取る手段が無くて苦労した。携帯キャリア大手は、LINEに対抗すべくショートメールの機能拡充を行っているようだが、だけのWiFi環境では使用不可だけに、緊急時対応としてLINEやSkypeなどの無料通話の重要性は再認識されるだろう。今回はエリクソンのシステムを使用している世界各国の携帯キャリアが同様の被害を受けた。それ故にエリクソン以外は安心ということにもならないだろう。血液と同じように通信インフラが重要な時代。各社は危機対応を見直してほしい。



New product

六甲バター 神戸のお土産新ブランド

エクスフロマージュ KOBE第一弾



濃密レアチーズケーキ

を立ち上げ、その第一弾として「濃密レアチーズケーキ」をJR新神戸駅と新大阪駅で先行発売した。

創業70周年を迎える今年、新たな顧客価値の創造と共に創業の地・地元神戸を盛り上げるための事業領域拡大に向け、土産事業に参入すべく商品の検討を進めてきた。今回発売した「濃密レアチーズケーキ」は、チーズのことを知り尽くした同社のチーズプロフェッショナルが、スイーツに適したチーズの組み合わせ・使い方を厳選し、贈りたくなるQ・B・Bのプレミアムギフトブランドとして発売した。

六甲バター(2266)は新ブランド「ex'fromage KOBE」(エクスフロマージュ KOBE)

ダイハツ工業 後付け安全装置発売

ペダル踏み間違いの急発進を抑制



トヨタ自動車(7203)グループのダイハツ工業は既販車を対象に、ペダルを踏み間違えた際などに起きる急な発進を抑制する後付け安全装置「つくつく防止(ぼうし)」を全国一斉に発売した。

この装置は、ペダルの踏み間違い事故による衝突被害を軽減することを目的に開発したもので、既に現在、所有しているクルマに対し、後付けでソナーセンサーやコントローラー、インジケーター等を装着することで、誤操作による重大事故の減少への貢献を目指すもの。車両前後に取り付けたソナーセンサーが前後方3メートル以内にある障害物を検知する。まずは累計販売台数の多い、2007年12月に発売した2代目タント(L375型/L385型)に対応した装置を発売し、その後順次対応車種を拡大させる。

敏腕先物トレーダー

ハチロクの裏話

いのたので、相場の上値の重たさを感ずる。日銀のETF買いの基準が

SQ通過後も上値重い

安値狙う仕掛け的動きに注意

先週の国内市場は週初より米中貿易摩擦の悪化や英国のEU離脱問題などにより下値を試す状態となり、TOPIXでは10月26日の安値(1581.56)を更新し、1572.33ポイントまで下落した。その後、ファウエイ副会長の保釈が決まるなど緊張感の緩和や週末のSQに対しての思惑から戻り相場を形成、TOPIXベースで約3%程度戻ったが、SQ通過後は再び弱い展開となった。

日経平均ベースでは11月26日の安値(2万1062円31銭)の安値を付けたが、10月26日の安値(2万9971円93銭)を割らずリバウンドした。ただ、25日移動平均線(2万1832円)を明確に抜けてこれ



編集後記

繁華街や電車でも外国人観光客を見ない日がなくなつた。今やインバウンド需要は国内小売業を支える大きな柱で、中国の春節の時期ともなると、会話サポートや割り引き、粗品の進呈など受け入れ側は爆買い取り込み躍起。ただ、免税制度を含め外国人客優遇は少くなく、外国人客を歓迎する掲示をしないケースも増えているという。

今週のスケジュール

- 14日 米11月小売売上高(22:30)
米11月鉱工業生産・設備稼働率(23:15)
- 17日 11月首都圏新規マンション発売(13:00)
米12月NY連銀製造業景気指数(22:30)
- 18日 FOMC(~19日)
11月住宅着工件数(22:30)
- 19日 日銀金融政策決定会合(~20日)
11月貿易統計(8:50)
11月訪日外客数
パウエルFRB議長会見(経済見通し発表)
米11月中古住宅販売件数(21日0:00)
- 20日 黒田日銀総裁会見
米11月CB景気先行総合指数(21日0:00)
- 21日 11月消費者物価指数(8:30)
米7-9月期GDP確定値(22:30)

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。